



福知山市2040市民会議

「廃校Re活用プロジェクト」

～行革甲子園2024 グランプリ受賞～



2025.12.21
福知山市資産活用課

廃校活用の現状と成果



福知山市では、平成24年度に27あった小学校から9年の短期間で14校に。

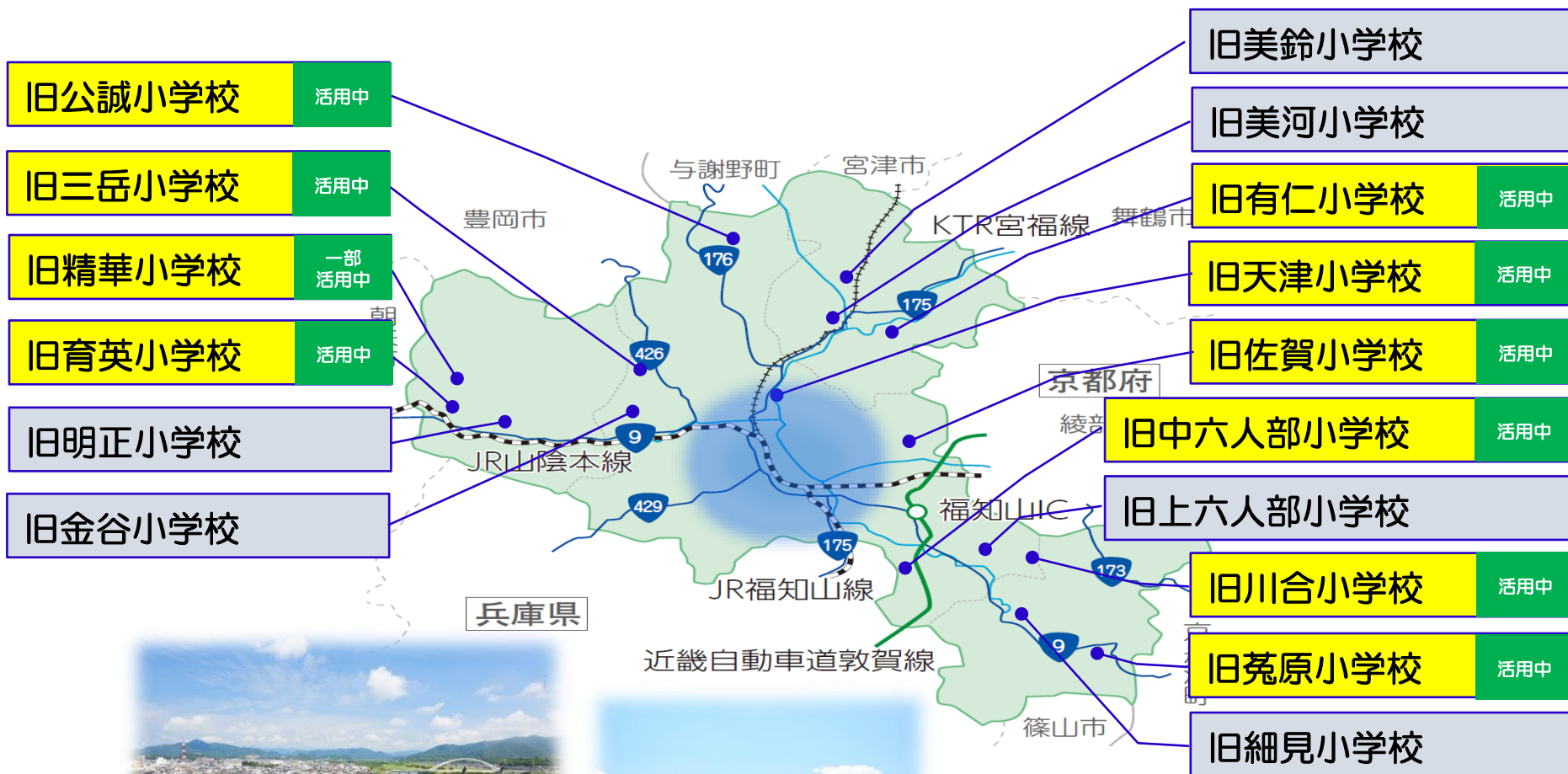
→ その結果として16の廃校が発生。

現在は、行政利用2校、民間活用8校の計10校（62.5%）で活用を実現！

| No. | 学校名 | 活用事業 | オープン | No. | 学校名 | 活用事業 | オープン |
|-----|--------|---------------|--------|-----|------|--------------|--------|
| 1 | 旧明正小 | サウンディング調査実施予定 | | 9 | 旧細見小 | 庁内検討中 | |
| 2 | 旧育英小 | 文化財保存庫 | R4.9～ | 10 | 旧佐賀小 | 店舗兼工場 | R3.10～ |
| 3 | 旧精華小 | グループホーム | R2.4～ | 11 | 旧天津小 | スポーツ施設 | R4.8～ |
| 4 | 旧三岳小 | 複合化施設 | R4.4～ | 12 | 旧金谷小 | 活用予定なし | |
| 5 | 旧川合小 | サブリース事業 | R4.10～ | 13 | 旧公誠小 | キャンプ、スケボーパーク | R4.7～ |
| 6 | 旧上六人部小 | 公募に向けて準備 | | 14 | 旧美河小 | 活用予定なし | |
| 7 | 旧中六人部小 | イチゴ農園等 | R2.10～ | 15 | 旧美鈴小 | 公募中 | |
| 8 | 旧菟原小 | 着物配送センター | R4.10～ | 16 | 旧有仁小 | ハウス栽培、加工施設 | R6.8～ |

約1億5,000万円（売却：約7,000万、貸付：約8,000万）の歳入増
年間約1,000万円の維持管理費等の歳出減のみならず、
新たな雇用や売却による固定資産税収入増等

市内廃校分布図



廃校活用の方針

活用の
基本



民間による廃校活用＝「持続可能で発展性のある廃校活用」

福知山市の廃校活用方針

地域のシンボル・レガシー

1. **地域の意向を重視**した活用とします。

民間ニーズを尊重

2. **賃貸・売却とも可**とします。ただし、上記1.に反する場合を除きます。

契約の複雑化を避け、窓口を一本化

3. **市と契約締結する事業者は1者**とします。

スケールメリットを活かし、余剰地を発生させない

4. **廃校全体**の活用又は管理とします。一部のみは不可とします。

スピード化とコスト軽減

5. 廃校は**現状有姿**とします。

高額のコストがかかる必要性や使いづらさを考慮

6. 廃校の賃貸の場合は、**建物は無償**とし、**土地は有償**とします。

地域にベストな事業者を選定するため、早い順でなく

7. 事業者は、**期間を設けて公募**します。



廃校活用の取組

活用の
取組



金融機関との公民連携促進に関する連携協定の締結（令和2年8月4日）

廃校などの大規模遊休資産等の利活用促進に向け、株式会社京都銀行・京都北都信用金庫と公民連携促進に関する連携協定を締結。

これにより、関係機関の協力関係をより発展させるとともに、公民連携促進に関する継続的な連携を図り、地域資源を有効に活用し、地域の持続的な成長・活性化の実現を目指す。



＜連携協定締結式＞

廃校活用の取組

活用の
取組



廃校マッピングバスツアー

「公民連携促進に関する協定」に基づく取り組みの一環として「福知山『廃校』マッピングバスツアー」を開催。ツアーでは、実際に企業が活用している廃校や、受け入れが可能な廃校を巡り、進出を検討する企業と福知山市との“マッピング”を図る。

<令和2年度バスツアー>



<令和3年度バスツアー>



廃校活用事例

活用の
様子



旧 中六人部小学校
・いちご農園、カフェ



旧 佐賀小学校
・和洋菓子店舗兼工場



廃校活用事例

活用の
様子



旧 公誠小学校・キャンプ



旧 川合小学校
・キャンプ等施設



旧 三岳小学校
・複合化、集約化施設



廃校活用事例

活用の
様子



旧 天津小学校
・サッカー等スポーツ施設



旧 菟原小学校
・配送センター



旧 精華小学校
・グループホーム



地域の声

活用の
様子



外出の手土産には、ムトベース（旧中六人部小）のイチゴをパックで買って行く。
「うちの地元で作っているイチゴや」と言ったら、すごく喜んでくれる。

学校施設を活用した習い事体験教室や
クラフトビールの原料となるホップ（大麦）
の地元での生産をはじめとして
今後もムトベースとの連携を更に発展させ、
関係人口の増加等、
中六人部の地域づくりを進めていきたい。

中六人部地域づくり協議会 会長
北山 哲史 さん

里山ファクトリー（旧佐賀小）の事業をきっかけに、集客施設としての
単なる賑わいづくりだけでなく、移住・定住を促進するために**地域住民**
が自ら地域の未来を考える「地区計画」の策定につながった。



佐賀地区計画策定委員会 委員長
松本 卓治 さん

福知山の廃校が万博に

大阪・
関西万博



旧細見小学校中出分校が、大阪市夢洲で開催される2025大阪・関西万博のシグネチャーパビリオン「いのちのあかし」として生まれ変わりました。



現在の万博パンフレット【抜粋】



テーマ 「いのちを守る」

Dialogue Theater

—いのちのあかし—

人はそれぞれの違いから、「分断」をうむ。しかし、人は心を持ち、「対話」をすることができる生き物である。お互いを対話によって認めあい、自分が変わること未来の世界も変わる。森をモチーフとしたシアターで、心の対話を実施する。

© Naomí Kawase / SUO, All Rights Reserved.

© LESLIE KEE

河瀬 直美
映画作家